

日本うつ病学会 学会奨励賞 受賞演題一覧

受賞演題／筆頭著者(所属)(所属は受賞当時のものです。)

第1回学会奨励賞(2006年)

受診しない人のうつ症状は軽いのか？(その2) ―会社員のうつ症状と受診行動―

山藤 奈穂子(矢後病院)

うつ病発症と薬物反応性の予測モデル作成の試み

奥 有紀子(昭和大学薬学部病態生理学教室)

慢性うつ病に特化したデイケアの有効性

―認知行動療法(CBT)を中心としたプログラムとその効果について―

仲本 晴男(沖縄県立総合精神保健福祉センター)

第2回学会奨励賞(2007年)

難治性うつ病におけるECT後の再燃に対する維持ECTの有効性

須賀 英道(京都大学大学院医学研究科精神医学教室)

治療抵抗性うつ病に対する集団認知行動療法の効果 ―前方視的長期フォローアップ研究から―

松永 美希(広島大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経医科学講座 / 吉備国際大学社会福祉学部臨床心理学科)

日本におけるうつ病の cost of illness

佐渡 充洋(慶應義塾大学医学部医療政策管理学教室)

第3回学会奨励賞(2008年)

中学生に対する学校ベースの抑うつ予防プログラムの効果

石川 信一(宮崎大学教育文化学部)

高齢者うつ病とアルツハイマー病に伴ううつ状態の比較検討

服部 英幸(国立長寿医療センター行動・心理療法科)

うつ病の復職準備性評価についての検証

福島 南(医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門)

第4回学会奨励賞(2009年)

情動処理と関連する脳機能と認知行動療法の影響について

―うつ病患者を対象にしたfMRI研究―

吉村 晋平(広島大学大学院医歯薬学総合研究科創生医科学専攻)

メンタル疾患に関する休職・復職制度導入による復職支援の効果 ―あるIT企業の取り組み

中田 貴晃(株式会社アドバンテッジリスクマネジメント)

第5回学会奨励賞(2010年)

寛解したうつ病の遂行機能と認知機能 ～服薬中の患者と服薬終了した患者の比較;第2報～

長根 亜紀子 (Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) / 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院)

メタボリックシンドロームとうつ状態の有病率との関連:久山町研究

関田 敦子 (九州大学大学院医学研究院精神病態医学)

第6回学会奨励賞(2011年)

うつ病の治療で血漿 BDNF は寛解群では増加するが非反応群では減少する

—うつ病の治療における血漿 BDNF 測定の有用性(第2報)—

栗田 征武 (社会医療法人公徳会佐藤病院 / 東北大学大学院薬学研究科細胞情報薬学分野)

児童の集団 SST による抑うつ低減の長期的維持効果:3年間フォローアップ

田中 利枝 (宮崎大学大学院教育学研究科)

第7回学会奨励賞(2012年)

残存する記憶機能障害はうつ病再発のリスクを増加させる

前嶋 仁 (順天堂大学医学部精神医学教室)

うつ病等による休職者の復職後の勤務継続に影響する生理学的指標

池田 英二 (横浜市立大学医学部精神医学講座/富山大学医学部神経精神医学講座)

第8回学会奨励賞(2013年)

高齢うつ病における発症年齢とアミロイド β タンパクの代謝異常との関係

馬場 元 (順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院/Juntendo University Mood Disorder Project:JUMP)

妊娠中の不安・抑うつと産後の抑うつと愛着不全との関連性

—妊娠末期から産後1ヵ月までの縦断的調査—

國分 真佐代 (三重大学大学院医学系研究科)

児童における抑うつと社会的スキルに関する縦断的分析 —学年に応じたターゲットスキルの検討—

永山 みお (宮崎大学大学院教育学研究科)

第9回学会奨励賞(2014年)

軽症うつ病における抑うつの自他覚症状の乖離と自殺傾性との関連

辻井 農亜 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

広島県における自殺未遂者実態調査

吉野 敦雄 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医科学)

第 10 回学会奨励賞(2015 年)

うつ病患者の自動車運転技能は低下しているのか？

岩本 邦弘（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野）

青年期閾値下うつを対象とした短期行動活性化の効果：無作為化比較試験

高垣 耕企（広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学）

第 11 回学会奨励賞(2016 年)

行動活性化の抑うつのメタ認知機能への効果 -fMRI 研究-

塩田 翔一（広島大学大学院精神神経医科学）

閾値下うつの安静時デフォルトモードネットワークに対する行動活性化の効果

横山 仁史（広島大学大学院医歯薬保健学研究科）

第 12 回学会奨励賞(2017 年)

妊産婦の示す希死念慮を予見する因子の調査

久保田 智香（名古屋大学学生相談総合センター）

うつ病に対する認知行動療法の予後予測因子の検討－ROC 分析による検討－

満田 大（桜ヶ丘記念病院）

第 13 回学会奨励賞(2018 年)

治療抵抗性患者のプロファイリング—RCT ベースの 2 年間の調査—

越川 陽介（関西医科大学精神神経科学教室）

福島第一原子力発電所事故3年目の電力会社職員における心的外傷後ストレス症状と抑うつ症状の併存に寄与する因子

谷知 正章（防衛医科大学校精神科学講座）

休職中のうつ病勤労者の復職決定時の評価による復職継続予測

堀 輝（産業医科大学医学部精神医学教室）

行動活性化による抑うつ症状と不安症状の改善経路の検討—ネットワークアナリシス—

青木 俊太郎（北海道医療大学大学院心理科学研究科）

第 14 回学会奨励賞(2019 年)

機械学習による MRI を用いた電気けいれん療法に対する個別の治療反応予測

高宮 彰紘（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 精神医学・行動科学研究所）

気分障害のバイオマーカーとしての血清中グリア細胞株由来神経栄養因子(GDNF)に関する多施設共同研究

井手本 啓太（千葉大学大学院医学研究院精神医学）

精神疾患における認知機能障害と社会活動時間との関連

宇野 洋太(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部)

個人に最適化されたうつ病再発兆候の早期発見技術の開発—心理・社会・生物学的データに対する機械学習法の適用—

山本 哲也(徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

第 15 回学会奨励賞(2020 年)

うつ病における脳内 MAO-B 密度を特異的な PET リガンド[11C]SL2511.88 を用いての可視化研究

森口 翔(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

非定型うつ病の症状に関連する認知行動的要因:横断研究による標的変数の検討

古川 洋和(鳴門教育大学大学院心理臨床コース)

第 16 回学会奨励賞(2021 年)

大うつ病性障害における悲観的な未来性思考に関与する前頭極の活動

片山 奈理子(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

治療抵抗性うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法による左背外側前頭前野-右扁桃体間の機能的結合性の改善

和田 真孝(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

COVID-19 感染症治療に従事する医療従事者のメンタルヘルスの実態

津山 雄亮(札幌医科大学保健管理センター)

第 17 回学会奨励賞(2022 年)

治療抵抗性抑うつエピソードに対する深部経頭蓋磁気刺激療法の有効性と安全性の検討:偽刺激対照無作為化二重盲検比較試験

松田 勇紀(東京慈恵会医科大学精神医学講座)

難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連

大江 悠樹(杏林大学医学部精神神経科学教室)

第 18 回学会奨励賞(2023 年)

実臨床における双極性障害外来患者の入院予測因子

徳満 敬大(獨協医科大学精神神経医学講座)

治療抵抗性うつ病に対する rTMS 療法の治療反応性と特異的脳構造との関係

盛山 宗太郎(慶應義塾大学 医学研究科 精神・神経科学教室)

コロナ禍による子育てへの影響—未就学児の保護者を対象にした二時点による比較—

瀧井 美緒(岩手県立大学 社会福祉学部)

第 19 回学会奨励賞(2024 年)

うつ病の重症度による脳血流動態の特徴と rTMS 治療による変化
辻 明里(大阪医科薬科大学 神経精神医学教室)

通院中のうつ病患者における社会的・医学的背景による受療行動の差異
二宮 朝日菜(早稲田大学大学院人間科学研究科)

第 20 回学会奨励賞(2025 年)

rTMS 療法の中期における抑うつ症状の自己評価と客観評価の乖離と臨床的転帰の関係
江藤 光弘(浅香山病院 精神科)

10 歳から 14 歳の児童生徒を対象としたうつ状態の増悪をもたらす中核症状とその安定性
武田 知也(人間環境大学総合心理学部総合心理学科)

第 21 回学会奨励賞(2026 年)

適応障害とうつ病:自殺企図プロセスの比較
加藤 紘幹(札幌医科大学医学部精神医学講座)